

# 第1回岩見沢市子ども・子育て会議議事録

日時 令和6年6月5日(水)午後6時00分

場所 であえーる4階 第1会議室

## 1 開 会

## 2 挨拶

## 3 議 事

### 報告事項

- (1) 令和6年度子どもの安全と安心に関する専門部会の報告について

### 協議事項

- (1) 第2期子ども・子育てプランについて

令和5年度の対象事業の評価について

4年間の評価(令和2年度～令和5年度)について

- (2) 岩見沢市こども計画(第3期岩見沢市こども・子育てプラン)の策定について

- (3) 幼稚園の認定こども園移行について

## 4 その他

## 5 閉 会

事務局	1 開会(18:00) 委嘱状交付
会長	2 挨拶 皆さんお疲れ様でございます。 先日、北海道新聞社の空知の担当の方から取材が来て、「えみふる」のあそび場を作った経緯を知っていて、今委員で残っている人は僕しかいないということでお話をさせていただきました。あそびの広場はとてもいい場所で、岩見沢市民よりもむしろ岩見沢市外の方々がたくさん集まってくる場所になっていて、一体どうしてそういうものを作ったのでしょうかと経緯を聞かれまして、僕は僕の見聞きしたことをお伝えしました。そんなふうに岩見沢市子ども・子育て会議が、みんなで一緒に考えたことが形になっていくというのは、とても素敵なことだなと思いました。 この後の議題にもありますが、こどもの遊び場づくり、居場所づくりのスタートアップに補助金を出す取り組みとか、「えみふるふぁいる」とか、まだ課題もいろいろあるのですけれど、皆さんとまた一緒に楽しく、何かできたらいいなと思っております。今期もどうぞよろしくお願ひします。

<p>会長</p>	<p>3 議事</p> <p>それでは、まず最初に報告事項が1件あります。(1) 令和6年度子どもの安全と安心に関する専門部会について、事務局から説明をお願いします。</p>
<p>事務局</p>	<p>では、報告事項(1) 専門部会の報告について、資料1をご覧ください。ここでは、令和6年度子どもの安全と安心に関する専門部会について報告いたします。</p> <p>この専門部会では、第2期子ども・子育てプランにおいて、こどもの貧困対策として新たに設けられた事業で、令和2年度から事業を行っております。資料の左上の令和6年度子どもの体験活動補助金についてをご覧ください。</p> <p>この事業は、将来を担うこどもたちが体験活動を通じて、仲間や地域の人と楽しく幸せな時間を過ごし、豊かな人間性や社会性を身につけ、また、どの家庭も地域の中で孤立することなく、安心して過ごせる機会をつくることを目指し、こどもの体験活動を実施する団体およびグループに補助金を交付する事業です。</p> <p>補助対象事業は、小学生から中学生までのこどもを対象としており、自由に過ごせる体験活動を提供するもので、年2回以上、1回当たり2時間以上などの条件がございます。また、補助対象者は市内で子育て支援並びに青少年育成の活動をしている、または、予定している団体および3人以上のグループとなっております。補助対象額は、1事業当たり10万円を限度とし、最大3か年継続可能となっております。ただし、予算の範囲内となっております。令和6年度の予算は50万円となっております。</p> <p>資料上段の右側をご覧ください。</p> <p>補助対象事業は、市ホームページのほか、広報5月号にて募集を募っておりますが、その募集要項等を第1回の専門部会で審議いただきました。</p> <p>第2回の専門部会では、5月1日から5月17日の募集期間に応募のあった、全6件について審査・選定をいただき、補助金額を決定いただきました。</p> <p>審査に当たりましては、できるだけ広い範囲で活動ができれば良いため、中心部以外の地域で取り組んでいる活動かどうか、また、持続可能性はどうか、活動の地域が限定されていないか、などをポイントとして審議をいただきました。</p> <p>今年度応募のあった事業は、下段にある6件となっております。</p> <p>①のピカピカ泥だんごを作ろうは、今年度で補助3回目となっております、来年度以降はこの補助金に頼らない運営を行う必要があります、教育大学の学生と連携した事業展開を検討しているとのこと。</p> <p>②のフルーツバスケット遊ぼう会は、補助2回目の団体です。昨年度も</p>

	<p>市内のいろいろな場所で活動したほか、障がい児にも参加を呼びかけて活動しております。</p> <p>③の体を動かす遊びにチャレンジも補助 2 回目の団体となっております。日の出サッカー少年団が主催しており、SNS を活用して広く参加者を募集し、ボールを使った遊びなどを提供しています。</p> <p>右側の④から⑥は、今年度から応募のあった事業です。</p> <p>④の夏祭り焼き芋大会は、北真小学校のグラウンドを活動場所として予定しており、事業名のとおり、夏祭り焼き芋大会を通じて、地域の方と子どもたちとの交流の場を提供する予定となっております。</p> <p>⑤のプレイゴは、英語を使った遊びを通じて子どもたちに英語を身近に感じてもらい、自信やグローバルな視野を持ってもらうことを狙いとして、市内各所で年 5 回ほどデイキャンプを開催し、様々な体験を提供する予定となっております。</p> <p>最後に⑥のみそのジョブズは、美園小区子ども育成連絡協議会が主催しており、地元企業の協力を得ながら、子どもたちに職業体験の場を提供し、子どもたちが自らの意思で行動し、自発的に学ぶ楽しさを実感してもらうことを目指しています。</p> <p>報告は以上となります。</p>
<p>会長</p>	<p>はい。ありがとうございます。何かご質問ありますか。</p> <p>今回はこのような形となりました。毎年 6、7 件ぐらい応募をいただいて、全部 10 万円ずつだと予算を超えるし、どこか落としてしまうのも残念なので、傾斜配分をすることにして 6 件全て決定とさせていただきます。中には町内会の活動を申請されたと思われるところもあり、町内の方々限定みたいな雰囲気になっても、補助金の趣旨と合うかなというところもあり、少し議論がありましたけど、結果的にはその辺りも伝えていただくということで 6 件となりました。</p> <p>補助金は 3 年までなので、3 年終わったところで今後は自立的に運営していくことを目指していただくというのも課題といえ課題といえると思います。</p> <p>それではよろしいですか。</p>
<p>会長</p>	<p>次に協議事項 (1) です。</p> <p>第 2 期岩見沢市子ども・子育てプランの令和 5 年度の対象事業の評価についてと、4 年間の評価についてですけれども、2 つに分けて説明と質疑を行っていただくことになっております。</p> <p>まず初めに、令和 5 年度の対象事業の評価についてを協議したいと思いますので、事務局の方からご説明をお願いします。</p>
<p>事務局</p>	<p>協議事項 (1) 第 2 期岩見沢市子ども・子育てプラン、令和 5 年度の対象事業評価についてです。資料 2 をご覧ください。</p>

A4 の資料には評価の概要を記載しております。A3 の資料には第 2 期プランに盛り込んだ、保育所入所環境整備事業から特別支援教育振興事業までの計 104 事業の各課の評価を記載しております。

なお、2-15 幼児健診事後指導教室については令和 3 年度にて、3-13 中学校選択制度、それから 6-5 S・E スタディに対する支援については令和 4 年度に事業を終了しておりますので、事業評価に含めておりませんので、ご承知おきください。

また、A3 の資料に記載している担当課は、今年度のものとなっております。評価につきましては、令和 5 年度の担当課によるものを記載しておりますので、併せてお伝えいたします。

それでは、概要を説明させていただきます。

評価につきましては、A から D の 4 段階で評価しております。A の計画どおりの成果については、89 件、全体の 88%、B の一部成果を得られないものについては、10 件、全体の 10%、C の計画どおりに事業遂行できなかったについては、1 件、全体の 1%、D の事業に着手できなかったは、1 件、全体の 1%という結果となっております。

集計結果を踏まえまして、第 2 期プラン、令和 5 年度の成果と課題につきましては、令和 5 年 5 月 8 日より新型コロナウイルス感染症の位置づけが 5 類感染症となり、感染対策が順次緩和されていく中、対象者や事業内容によっては、リモートの取り組みを残しつつ、可能な限りコロナ禍以前と同様の事業実施となるように努め、おおむね計画どおりに成果を得ることができました。

計画どおりに成果を上げられなかった、B から D については全体の 12%という結果となり、令和 5 年度の 18%から 6%ほど減少いたしました。

A 評価の計画どおりの成果を上げた事業の例として、児童館等 14 ヶ所で開催する地域親子ひろば、常設型親子ひろば「ひなたっ子」の開設により、相談者と支援者を繋ぐ充実した子育て環境の整備を図る「子育て親子ひろば」では、感染症対策を行いつつ、予定どおり実施し、それぞれ利用者は 1,023 人、9,304 人と令和 4 年度を上回っており、親子が気軽に集い、子どもと遊びながら交流できる環境作りを行うことができました。

B 評価の一部成果が得られない事業の例として、こども・子育てひろば「えみふる」において、専門職が行う子育て相談である、えみふる子育て相談では、あそびの広場に延べ 21 回の子育て相談機会を設け、60 家庭 106 件の相談対応を行っておりますが、小児科医による相談対応につきましては、医師の都合がつかず実施できておりません。

令和 7 年度以降の実施方法等について検討が必要と考えております。

C 評価の事業計画通りに着手できなかった事業は、保育所地域活動事業の 1 件となります。新型コロナウイルス感染症については、社会生活にあ

る程度の収束が見られておりますが、重症化リスクの高い高齢者が多く生活する高齢者施設等においては感染対策が引き続き行われていること、また、令和5年度は例年より早い時期からこどもに多く見られる感染症の流行が見られたことから、高齢者施設等への訪問再開は限定的となっており、手紙のやり取りでの交流とする保育所が多いなど、全体として計画どおりの交流再開には至りませんでした。

最後にD評価の着手できなかった事業については、児童虐待防止の学習会によるネットワーク作りの1件となります。

虐待防止に向け、有識者等で構成する懇話会の設置や、懇談の機会を検討してはりましたが、構成員の調整が進まず企画実施等には至りませんでした。

以上で資料2、第2期岩見沢市子ども・子育てプラン、令和5年度の対象事業評価の概要説明について終了いたします。

続きましてA3の資料、第2期子ども子育てプランの対象事業評価表のうちから一部ではございますが、令和5年度の状況について説明させていただきます。

まず、No.1-5病児保育事業です。こちらは令和3年度まで岩見沢市立病児保育施設における病児保育施設と、岩見沢ひがし認定こども園による病後児保育を行っていましたが、病後児保育の利用が少ないことから、岩見沢ひがし認定こども園による病後児保育を廃止し、令和4年度より、ファミリー・サポート・センター事業による病児病後児の預かりを開始しております。

令和4年度の登録者数は67人、延べ利用者数は1人でしたが、令和5年度の登録者数は81人、延べ利用者数は29人となっており、徐々に利用が進んできております。

次にNo.3-23遊びの広場運営事業です。12ページになります。

であえーる岩見沢3階に設置しております、親子が集まる場所と各種相談機関が集まった「えみふる」の中核となる施設「遊びの広場」の状況です。令和5年度当初は新型コロナウイルス感染症の感染対策として、本来の3クール制から2クール制へ変更し、1クール当たりの入場制限を設けておりましたが、同感染症の5類移行に伴い、令和5年5月8日から入場制限を廃止し、6月1日より本来の3クール制へ戻し、おおむねコロナ禍以前と同様の体制で実施しました。

全体の利用人数としては、令和4年度の4万320人から5万5072人と大幅に増加し、コロナ禍以前と同等の利用人数まで回復しました。

利用者の市内外の内訳としては、市内1万7156人、市外が3万7916人であり、市外利用者が約7割を占める状況となっております。

市内利用者数は、コロナ禍以前と比較して減少していますがこの点をど

	<p>う捉えるか、どのように利用ニーズに応じていくかが今後の課題と考えております。</p> <p>資料2の説明は以上となります。</p>
会長	はい、ありがとうございます。何か質問ありますか。
委員A	<p>評価表は毎年読ませていただくのですが、数値で表しているのと質的な評価がある。質的な評価は悪いとは思わないのですが、何が課題で、その課題をこういうふうに対処したみたいなのがあると、年度ごとの推移がわかってくるという気がします。</p> <p>同じような文言になってしまうと、何を目指して評価のラインにしているかが見えない。数値だと変化があって、確かに増えているとか、今年は減ったとわかったりします。それを質的に行う場合は、前年度はこういう課題でそれがこうだったとか、前年度のこういうところを維持することができたとか、そんな評価になるといいなと思いますけれども、どうですか。難しいですか。</p>
事務局	そのようになるよう資料の作成に努めたいと思います。
委員A	難しいこともあると思うのですが、評価することがだんだんルーティンになっていってしまう気がするのです。ぜひそのような形にさせていただけるといいかなと。努力が表に出てくるように、ぜひとも取り組んでいただければと思います。
事務局	来年度、同じように調査をいたしますので、その際には質としての評価もわかるような形で記載してもらおうよう、担当課にも周知したいと思います。
委員A	<p>予防のところは何事も起こらなかったことが良いことですので良いのですが、対応とか、より良くしていているというのが市民にも伝わるような表記になっている方が良いかなと思ったところです。</p> <p>よろしくお願いします。</p>
事務局	ありがとうございます。
会長	ほかに何かありますか。
委員B	<p>今日の北海道新聞（事務局追記：子ども・子育てひろば「えみふる」あそびの広場に関する記事）に、会長のコメントが出ていました。素晴らしいコメントでした。経緯を知っていらっしゃるとおっしゃっていたことも、近い町で南幌町のことも出ていました。</p> <p>近隣でもこういう施設が出てくるということは、遊具もとてもよくなったりしているけれども、よりみんなに来ていただけるような感じになっているということと、運営上では市内の人は小学生以上が100円、市外の人と同じ料金です。今後もそれですとやっていけるかどうか。同じというのはとても素晴らしいことだと思います。だけど、よその施設では市内と市外の料金が分かれています。遊具が良くなるとか、いろんなことを考えて</p>

	<p>も、余裕があるなら違うかもしれないですが、そういうことも少し考える時期でもあるのかなと思います。周りを見ていると、市内よりも市外の方が多いい。嬉しいことです。それで市外の方が岩見沢でお買い物とかもしてもらえるとということに繋がるようになるとまた違うかなと思いました。</p>
会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>ほかのところでは、料金を市内と市外を分けたりしますが、岩見沢はしないのですよね。</p> <p>ほかにかがですか。</p> <p>次に移りたいと思います。4年間の評価について事務局の方からご説明をお願いします。</p>
事務局	<p>それでは、過去4年間の総括的な説明をさせていただきます。資料3をご覧ください。</p> <p>まず、左側の4年間の事業実施状況です。</p> <p>第2期子ども・子育てプラン第4章の子ども・子育て支援事業計画には、国が定める「量の見込み」と「確保方策」のほか、関連事業として、先程説明した各事業を位置づけています。</p> <p>計画期間内に新たに組み込んだ事業として、保育士等の人材確保策など4事業があり、これらは計画に定めたとおりに実施することができました。</p> <p>また、実施内容を見直した事業として、ファミリー・サポート・センター事業における病児病後児保育の開始や、こどもの医療費の助成を、入院・通院ともに高校生まで対象を拡大するなど、既存の事業を拡充する取り組みも行ってきました。</p> <p>計画期間内に実施を終了した事業もありますが、違うアプローチでの対応や、一定の役目を終えたものが多く、計画全体の遂行そのものに大きな影響があるようなものではなかったと考えています。</p> <p>そういった意味では令和2年度からの4年間、この計画に基づいた子ども・子育て支援の取り組みができたと言って良いと思いますが、問題はその結果としてこのまちがどう変わったかということだと考えています。</p> <p>それによって、次期計画の策定に向けて何を検討すべきかというご意見をいただければと思います。</p> <p>はじめに、子ども・子育てひろば「えみふる」についてです。</p> <p>資料2でも少し触れましたが、あそびの広場の4年間の利用者推移についてご説明いたします。</p> <p>右上段、真ん中辺りの表になります。</p> <p>全体の利用者数としては令和元年度までは5万5000人を超えていましたが、令和2年度からは新型コロナウイルス感染症による影響が大きく、一時は2万人を下回る状況となりました。その後は感染対策に努めながら</p>

運営し、令和5年度にはコロナ禍以前の水準まで利用者数が回復しました。一方で、「えみふる」の目的からいうと、市内利用者数が重要と言えますが、令和元年度の2万291人に対し、令和5年度は1万7156人と15.4%減りました。その分、市外利用者数が増えているわけですが、市内利用者の減少の理由が、単純に子育て世帯の減少によるものなのか、市内に住む子育て世帯のニーズに合ったものが提供できていない、もしくはコロナ禍後の利用に対する保護者意識の変化など様々な影響が考えられますので、要因分析という点では大きな課題であると考えております。

次に、産前産後ヘルパーの利用状況についてです。

先程ご説明したあそびの広場と同様、令和2年度から利用者数が大幅に減少していますが、あそびの広場と異なるのは、令和5年度時点においても利用者が減少したままという点です。

産前産後ヘルパーの利用はあそびの広場と異なり、自宅に来て支援してもらうという内容であるほか、対象者は感染症に対して特に意識の高い時期である出産前後期の保護者のため、コロナ禍を経て感染症に対する意識の変化や、他者との接触機会の減少などにより、利用に対する抵抗感が増しているのも利用者が増えない一因ではないかと考えています。

また登録者数を見ると、利用者の減少と比べてそこまで減少していません。これは利用回数が減少しているほか、傾向として「利用したいから登録する方」の割合が減少し、「万が一に備え、念のため登録する方」が増えたと言えるのではないかと思います。

事業の継続に当たっては保護者ニーズの把握、支援方法のあり方について検討していく必要があると考えております。

続いて、ファミリー・サポート・センター事業と留守家庭児童の状況です。ファミリー・サポート・センター事業は産前産後ヘルパーと同様、自宅に来て支援してもらうという内容ですが、令和2年度以降も援助活動回数に大幅な減少は見られません。

コロナ禍においても援助活動回数が減少しなかった要因としては、産前産後ヘルパーと比較して対象年齢の幅が広いことや、有料であっても長い時間の利用が可能であることのほか、利用する保育施設や習い事への送迎、冠婚葬祭や兄弟の学校行事の際の預かりなど、利用を必要とする家庭が一定数いるということが挙げられます。

次に、留守家庭児童につきましても、コロナ禍において大きな影響は受けておらず、利用日数はおおむね横ばいとなっています。こちらも共働き世帯の増加など、利用を必要とする家庭が一定数いるということが大きな要因と考えております。

これらの事業につきましても、引き続き必要とする家庭が適切に利用できるよう取り組んでいきたいと考えております。

	<p>次に出生数です。</p> <p>全国的にも課題となっておりますが、岩見沢市の出生数も減少が続いております。</p> <p>第1期計画策定時である平成27年度時点から比較してみます。</p> <p>平成27年度に対し、現行計画策定時の令和2年度では24.2%、令和5年度では36.3%、出生数が減少しています。</p> <p>また、隣のグラフでは、第2期計画策定時の就学前児童の推計値と実績値を抜粋して載せておりますが、推計を上回るペースで減少し、令和5年4月では約8%、令和6年4月で約10%推計値を下回っています。</p> <p>この原因ですが、下の人口ピラミッドをご覧いただければわかるように、こどもを産み育てる年代、20歳から39歳までの男女の人口が急激に減り、平成27年度に対し25.9%減っていることがわかります。</p> <p>結婚しなくなった、こどもを産まなくなったという傾向よりも、こどもを産み育てる年代の人口が減った要因が大きいと思えます。</p> <p>これは第2期計画策定時の状況と大きく変わっておりません。</p> <p>令和6年3月に取りまとめられた第3期岩見沢市総合戦略では、年齢別でいうと、20代の転出が最も多い状況ですが、14歳以下のこどもとその親世代に相当する30代では、改善傾向が見られ、特に14歳以下については平成28年以降、転入超過の傾向が続いているということですので、これまでの子育て支援の充実は、少しずつ効果が出てきていると思えます。</p> <p>また、総合戦略の中では、他市町村から岩見沢市に通勤・通学する方が、令和2年には約8,500人おりました、こうした方々に将来的な生活拠点として、岩見沢市を選んでもらうという視点は重要であり、岩見沢市の魅力を発信し、移住・定住に繋げていくことが、人口減少の抑制に効果的であるともまとめられております。</p> <p>そういった観点からも、市ホームページやこども・子育てポータルサイトなどを活用したPRを積極的に行うなど、こども・子育て支援を重点分野と位置づける第3期岩見沢市総合戦略との両輪で取り組みを進めていきたいと考えております。</p> <p>こうした状況を踏まえ、コロナ禍後の保護者意識やニーズの変化などを考慮しながら、次期プランに向けた見直しを行っていききたいと考えております。</p> <p>説明は以上となります。</p>
<p>会長</p>	<p>はい。ありがとうございます。</p> <p>この4年間の評価について事務局から説明ありましたが、何かご質問ありますか。</p>
<p>委員A</p>	<p>ファミサポも産前産後ヘルパーも、登録されている方にインタビューや</p>

	<p>アンケートを取る、あるいは、登録を希望されない方にヒアリングできるような機会とかありますか。</p> <p>結局、そここのところを聞いていくのが、バリアとは実際何なのかということについて把握する上では重要になってくると思います。</p> <p>利用しにくさがどういうところにあるのか、利用しやすさがどこにあるのか、利用はしていないけど、こういう制度があることが安心に繋がっていて登録だけをしているという方もいらっしゃると思うし、その辺りが声として聞こえてくるような仕組みがあったら良いですね。</p>
事務局	<p>産前産後ヘルパーですと、母子健康手帳を受け取りに来た段階で説明させてもらい、登録いただいていますので、その後の健診時にその後どうですかと意見を聞くのは可能だと思います。</p>
委員A	<p>子育てに関わることというのは本当に複雑な要因が関わっているので、給料を上げれば子育てするかというところも出てくると思うので、やはり利用される方々の、利用する権利のある方の声を聞いて、そのニーズを捉えていくしか方法は無いと思います。そう思ったのが一つです。</p> <p>もう一つは、14歳の子たちの人数が少し増えているということですか。ほかに増えている世代は。</p>
事務局	<p>14歳以下と、30代の方ですね。その親世代の家族ですね。</p>
委員A	<p>子育て支援の一つとして僕らができそうなことは何かというと、早い時期から子どもに触れてもらう、子どもがいる状況が結構楽しいんだということを知ってもらうことがすごく大事で、今赤ちゃん抱いたことがない人たちがたくさんいる。それこそ自分の子どもが初めて子どもを抱く機会だという方々も結構いらっしゃるので、何かそういった取り組みがあるといいかなと思ったりします。</p> <p>そういう意味であそびの広場はとても大事なところだと思っていて、そこにいろんな年代の子どもたちが来てくれて、岩見沢市の外からも来てくれて、そういう方々がお互い触れ合えるようなことを、この中で取り組んでいく。あそびの広場を作ったときに話していたのですが、例えば産婦人科の先生が今日胎盤が取れたからねと持ってきてくれる、首のすわっていない赤ちゃんを抱っこしてみよう、人形でもいいからやってみようとか、小児科のお医者さんが何か面白いことしてくれるとか。あそびの広場が何か触れ合う機会の発信地になると、いろんなものが使えてくるのではないかなというのは、あそびの広場を作った時点から話をしていました。</p> <p>岩見沢市には道の駅がないので、あそびの広場が道の駅の代わりみたいに子どもを連れて行って、あそびの広場を拠点にしながら、その周囲や屋外にも何かそういうのができてきたらいいねというのが意見としてあつ</p>

	<p>たのを思い出したので、ここでお伝えしておきたいなと思いました。</p> <p>子どもたちを遊ばせるなら、岩見沢市に行ってみたらいいでしょ、みたいな感じになってきたら良いなというふうに思いました。</p>
事務局	<p>補足として一点だけ、今アンケートの話がありましたが、お母さん方に直接聞くのも一つの手段だと思うのですが、今のお母さん方、お父さん方の多くはスマホを使っている世代ですので、市で北海道大学と共同で作っている LINE 版のアプリで、すこやか健康手帳というものがあります。生年月日を全部入れてもらうことによって、年代ごとにいろんなアプローチやアンケートを出したりできます。それらを使って今後いろんな事業の周知やご意見をいただくという場面もいろいろと作っていききたいなと構想段階で考えています。アプリからポータルサイトに行けるようにしますので、お母さん方にそれを利用してもらうと。もちろん予防接種の通知もされます。より使いやすくすることによって、市もいろいろと利活用ができますし、いろんなご意見を聞く場もできるのかなと考えていますので、うまく利用して考えていききたいなと思います。</p> <p>余談になりますが、赤ちゃんに触れ合う話がありましたけど、これも北大COIとの連携で、妊娠してから赤ちゃんがずっと育っていく姿の模型を、大きさもほぼそのままのものを 3D プリンターで作って、母子保健事業で利用していますので、そのあたりの利活用も考えていききたいと思います。</p>
委員 A	<p>そのポータルサイトを使って、ぜひ「えみふるふぁいる」の宣伝をしてください。</p>
事務局	<p>はい。いろんな宣伝をそれぞれ年代ごとのターゲットに必要な情報を届けるということもできますので、いろいろとご意見をお聞きしながら検討させていただければと思います。</p>
委員 A	<p>ぜひぜひ、意見を聞きながら、取り入れながらやっていただければと思います。</p>
委員 C	<p>質問よろしいですか。</p> <p>遊びの広場の利用状況ですけども、人数にカウントされているのは入場者の全てということになりますか。要は、大人とか子どもとかいらっしやと思うんですけども、全て含めてということ。</p>
事務局	<p>はい。そのとおりです。</p>
委員 C	<p>ということは、市外からはほぼ家族で来るという可能性が多い状況なので、市内と市外で保護者の方がどのくらいの割合でいるというのわかりますか。年齢層ですね。市内と市外で同じくらいの割合なのか。単に子どもだけの数字はありますか。いかがでしょうか。</p>
事務局	<p>今は数字を持ち合わせていないのですが、大抵市外から来られる場合には、お父さんとお母さんがお子さんを連れてくるという形になりますので、保護者の方の人数も多くなっています。</p>

	<p>市内の方につきましては、基本的にお母さんだけが連れてくるということが多くいものですから、お子様がおひとりでしたらその保護者の方おひとりぐらいの割合になっています。</p>
委員C	<p>そのあたりが少し気になったところで、岩見沢市の中で来られるときはこどもだけで来ることはないですか。</p>
事務局	<p>小学校低学年は保護者同伴でとっていますが、4年生から6年生は保護者が同伴していなくても入場可能としておりますので、こどもだけで来る場合もあります。</p>
委員C	<p>保護者の方が1人来るか2人来るかでも倍違いますので、もしかしたらこの数の中にそういう要素も含まれていたりするのがあるのかなと思いました。そうすると岩見沢市の方の利用数を増やすとなった場合に、大人の方が来やすいもの、例えば健康、BMI や骨密度が測れますというようなものがあつたりすると、大人も一緒に行って、普段できないものを測定できたりすると一緒に行ってみようかなと、一気に倍ぐらいにはなるのではないかなという気はしていました。</p> <p>そのあたりがこのデータからだ見えなかったので、聞きたかったところです。</p> <p>もう一つよろしいですか。</p> <p>今日もいろいろ教室もやられていますけど、そこの利用者が数字に入っているのですよね。</p>
事務局	<p>そうですね。基本的に教室に参加される方も利用料を徴収していますので、利用者としてカウントしています。</p>
委員C	<p>その教室の利用者は、市内のこどもだけですか。</p>
事務局	<p>はい。</p>
委員C	<p>団体というのは、例えば保育園や幼稚園で来られる方が多いということですか。</p>
事務局	<p>そうです。</p>
委員C	<p>団体は時間が決まっているのですか。</p>
事務局	<p>コロナ禍前は、基本水曜日が団体利用の日ということにさせていただいていたのですが、今は利用者が平日ですとほぼいないものですから、一般利用と団体利用との区別なく、利用させていただいています。</p>
委員C	<p>例えば、平日の午前中とかもですか。</p>
事務局	<p>そうですね。</p>
委員C	<p>わかりました。</p>
会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>はい、他にないですか。</p>
委員B	<p>事業番号の1-8子育て支援センター事業の中に、青空広場というのがあります。いわみざわ公園でお母さんとお子さんたちが集まるイベントです</p>

	<p>が、コロナ禍の時には人数が少なかったです。</p> <p>以前はたくさんのお親子が来てくれて、そのときに岩見沢市立緑陵高校のボランティア部がお手伝いに来てくれます。</p> <p>高校生が遊具の手伝いをしてくれると、こどもたちもすごく嬉しそうだし、高校生もすごく楽しそうにしてくださる。</p> <p>さっきおっしゃっていたように、赤ちゃんに触るとか、小さい子に触るという機会は少ないし、市立で高校があるということは、あそびの広場とかのボランティアもやってもらおうと岩見沢市全体で子育てを応援しているのだなというふうになったりして、いい感じになればいいかなと思いました。以上です。</p>
事務局	<p>親子で触れ合う機会としての「ひなたっ子」ですとか、そういった場でもコロナ禍前は設けていたのですけれども、コロナになって中断した以降は、昨年度は青空広場に緑陵高校に参加していただいた以外は、そういう機会を設けることができませんでした。</p>
委員B	<p>そうですね。また復活するといいですね。</p>
事務局	<p>そのような形で、学校との調整もあると思いますが、そういった機会が設けられるように検討していきたいと思います。</p>
委員D	<p>資料3の左側の表の5番目、幼児期の学校教育保育の一体的提供というのはどういう事業ですか。</p>
事務局	<p>事業番号で言いますと、1-20、1-26、1-28がそれに該当する部分になります。</p> <p>1-20が4ページですね。A3横版の4ページのところの中段でございます。新しい幼児教育と保育ということで、認定こども園の話になります。</p> <p>それから、1-26、1-28は5ページに掲載しております。</p> <p>1-26が保育士等人材確保事業、1-28が保育士等人材バンク事業という形になっております。</p>
委員D	<p>わかりました。すみません。</p> <p>先日、別の会議で、幼稚園に入園手続きに来られる方の中で、申し込み時期よりだいぶ後になってから、幼稚園のことがやっとわかって連絡しましたというような人がかなりいらっしゃるという話題になりました。</p> <p>それで、保育園と認定こども園と幼稚園が岩見沢にはこういうふうにあって、こういう働き方の場合はこういうところが選べるよというのが総合的に見えないという感じが、そのお母さんたちから伝わってきたのです。</p> <p>それで、保育所、認定こども園、幼稚園、全部がわかるようにお伝えできないのかなという話が出ました。今、保育園と認定こども園は広報いわみざわで皆さんにお伝えするのですが、幼稚園単体だと広報に載らないものですから、個人の努力で見つけてきてくれるという形になっています。そこを何とかできないのかなと、この間話題になっていました。これ</p>

	<p>からいろいろご相談に行くかもしれませんが、よろしくお願ひします。</p> <p>もう一つは、幼児期と書いてあるので学校とは違うと思うのですが、幼児教育の場にいると、小学校、中学校と一緒に研究や研修をするという場面がすごく少ないまちだなという感じがします。</p> <p>幼稚園の中だけで研修しているだけなので、その後育っていったこどもたちがどうなっていくのかも知りたいので、小学校や中学校と一緒に研修の機会があったらいいなと思いました。そんな話題になっていたということをお伝えしておきます。</p>
会長	何か事務局からありますか。
事務局	<p>幼稚園と保育園の関係です。市民の皆様にもわかりやすく、どうやってお知らせすればいいかということですが、今年、ポータルサイトをリニューアルする中で、事業を含めてどんなことをやっているかということはお子様のいる、これから産むお母さん方にも知ってもらいたいというのがありますし、先程言った市外から市内に働きに来ている方とか、そういったこども・子育て世代も、移住・定住も含めて、知ってもらいたいところもありますので、ポータルサイトを利用しながらどこまでできるかわかりませんが、なるべく制度的にわかりやすい作りの中でお知らせをしていくのと、保護者の方に直接お知らせができる内容を検討させていただきたいというふうに思っています。</p>
委員D	わかりました。
事務局	<p>小学校や中学校との連携を図りながら研修機会の充実をとというのが二つ目のご意見かと思ひます。指導室や学校教育課にご意見があったことを伝えまして、内部で協議させていただくというのが、できることかと思ひますので、指導室や学校教育課に投げかけたいと思ひます。</p>
委員A	<p>今回、岩見沢市で機構改革があつて、こども家庭庁もそうなのですが、どちらかという福祉の方にスライドしていつて、学校教育的なものが入らなくなっているような印象が外側から見るとあるのです。今後、そのあたりの連携はどのようになるのですか。</p> <p>例えば、今回 OK スタディの移動支援をやめてしまった。しかもオンラインにした。オンデマンドに。</p> <p>こども・子育てとか、さっきの話みたいにこども同士が関われるようにみたいなことから考えると、バスで来ている意味ってすごくあると思ひています。</p> <p>何回か、S スタディやE スタディの会場に、たまたまその日に行っているときがあつたので、あそこだから他の中学校の子たちと会えたり、関わることができる機会になつていて、コスト面とかいろいろ大変かと思ひのですが、あれはあれですごく意味のあることだと、いいなと思ひていたのです。今回コロナのせいで参加者が減ってきたのもあると思ひのですけ</p>

	<p>ど、コロナが終わって、これからそういうことがもっとやれるところで、送迎バスをやめてしまうというのは、どうなんだろうなと思っているのです。</p> <p>学習は学習だけのもの、学力を上げるためだけのものみたいに無料塾を考えられてしまうのも、すごく勿体ないなと思っていて、さっきのあそびの広場、「えみふる」もそうだけど、岩見沢市外から来る人たちがいるのは迷惑じゃなくて、いろんな人たちと触れ合うチャンスだと捉えていくと、都会に出て行ってもシャイじゃない子たちが少し増えるかもしれない。向こうから岩見沢に来られるのだったら、岩見沢から向こうに行くという選択肢もあるのだなということをごどもたちは身体でわかってくれるようになるかもしれないから、岩見沢に留まってくれる子たちもいるのかなと思う。そんな意味合いもあるので、本当は子育ての部分と教育の部分でよく話し合ったり、すり合わせるような場があったりすることが大事だと思うのです。</p> <p>その辺の危惧があるということだけは、議事録に載せておきたくて、発言させてもらいました。</p>
事務局	<p>今のお話を聞いて思ったのが、事務局に教育委員会も入れた方がいいのかなと。お互いこの場で一緒に聞いた方がいいと思いますし、ごども家庭センターの役割でいくと、生まれる前から結婚してまた産もうということ、長いサイクルでごどもの範囲がすごく広がったのです。法律上も支援するところも。その中で当然教育の部分もありますので、確かに文科省と分かれているところもあるのですが、それは市民にとっては関係ないと思いますので、できればこの事務局に入っていただくという話をしていきたいと思います。</p>
委員A	<p>一元化されてしまうとその辺が見えなくなりやすいので、ぜひともご検討いただければと思います。</p>
事務局	<p>対象が広範囲になったというのもありますし、いろんな事業をこれからブラッシュアップしたり、場合によっては廃止というのもあるかと思っています。市として、人口減少もあって、いろんな経費も削減されて、財源を確保する、捻出するというのは、今後困難になってくる。ごども・子育てにすごく力を入れていかなければならない中で、安定的な財源を確保するためには何かを辞めないと確保できない。人的資源も同じですので、市役所の中でかなり議論はあります。そういう中でもやっぱりごども・子育てをできるだけ優先したいという方向性もあるものですから、財源を注意深く見ながら、できる限り実現していきたいと思います。場合によってはできないものももちろんある。もしできないとしたら市の財源のほかに、クラウドファンディングなどいろいろありますので、財源の確保の手段を含めて検討させていただければと思っています。</p>

委員 A	<p>そうですね。必ず子育てのことが始まると財源の話になってしまうのですが、でも人材って基本的に投資なので、あまり戻ってくるのは何か考えて始めると、子育てほどあんなに赤字になるものはない。そうすると、やっぱりその雰囲気そのまま子育てに影響してしまうのではないかなと思うので、ぜひ子育ての部分、人材育成というところで頑張って獲得していただけるようによろしくお願いします。</p>
会長	<p>何かありますか。よろしいですか。  それでは協議事項 2 に行きます。  岩見沢市こども計画の策定について、事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>それでは、岩見沢市こども計画の策定についてです。資料 4-1 をご覧ください。</p> <p>まず、上段の左側です。現行の第 2 岩見沢市子ども・子育てプランは、令和 6 年度までの計画期間となっております。このため、今年度は次期プランの策定作業を行う必要があり、プランの内容等については、本子ども・子育て会議にてご審議いただくこととなっております。</p> <p>続いて上段の右側になります。令和 5 年 4 月に施行されました子ども基本法において、市町村は国のこども大綱等を勘案して、市町村こども計画を定めるよう努力義務化されました。この計画は、既存の計画と一体での策定が可能とされております。</p> <p>岩見沢市としては、次期プランは市町村こども計画と一体的に策定していきたいと考えております。</p> <p>次に資料下段の策定スケジュールをご覧ください。</p> <p>プラン策定は、ニーズ調査の内容や対象者の決定、調査結果の報告や調査結果に基づいたプランの作成など計 6 回の会議を予定しております。これ以外に、各専門部会の会議を計 4 回予定しておりましたが、既に子どもの安全と安心に関する専門部会は 2 回実施しておりますので、専門部会は残り 2 回の実施予定となります。</p> <p>今回の会議は赤枠でお示ししている部分となります。</p> <p>まず、第 2 期プラン評価と課題につきましては、先ほどご説明いたしましたので、その下の次期プランの方向性などについてですが、そちらの説明は資料 4-2 で説明したいと思います。</p> <p>それでは、資料の 4-2 をご覧ください。</p> <p>上段の左側ですが、現行プランにおいて内包する計画となっております。次に矢印の下をご覧くださいと、次期プランで、内包する予定の計画などを列記しております。現行プランに内包するこども・子育て支援事業計画、それから次世代育成支援行動計画、児童虐待防止計画、子どもの貧困対策推進計画のほか、市町村こども計画として、総合的かつ長期的な少子化に対処するための政策、子ども・若者計画も含めることとし、それら</p>

	<p>を一体的に岩見沢市こども計画として策定したいと考えております。また母子保健を含む育成医療等に関する計画や母子および父子並びに寡婦福祉法に基づく自立促進計画など、こども・子育てに関する計画も包含する形での策定を考えております。</p> <p>続きまして、右側のニーズ調査の実施についてをご覧ください。</p> <p>こども・子育て支援事業計画では、こども・子育てに関するニーズ調査を実施し、「量の見込み」と量に対する「確保方策」を定める必要がありますので、現行プラン策定時と同様にニーズ調査を行います。</p> <p>ニーズ調査としましては、就学前児童の保護者、小学校児童の保護者を対象とするほか、一般市民向け事業所向けとしてアンケート調査を実施する予定です。</p> <p>調査対象は現行プラン策定時と同様ですが、調査項目につきましては、前回の調査項目をベースとして、国が実施を予定している「こども誰でも通園制度」の利用ニーズに関する設問や、資料3でご説明した遊びの広場や産前産後ヘルパーなどの利用に関する設問など、新たな設問を追加する予定です。</p> <p>また、下段にあります子どもの貧困対策推進計画については、これまで北海道が実施する調査内容を参考としておりましたが、岩見沢市における実態把握のため、生活実態調査を行いたいと考えております。</p> <p>調査対象は小学校5年生、中学校2年生、高校2年生とし、調査項目としては、健康状態や生活状況、将来に関することなどの設問を想定しております。</p> <p>具体的な調査項目につきましては、会議日程などの策定スケジュールの関係から事務局に一任いただきたいと思いますと考えております。今月中には、全国の市町村においてニーズ調査等の実績がある事業者と委託契約を締結する予定であり、委託業者と調整の上、ニーズ調査を実施したいと考えています。その後、ニーズ調査結果と分析、人口推計などの基礎資料を整理した上で次回の本会議において、委員の皆様のご意見を伺いたいと考えているところです。</p> <p>説明は以上となります。</p>
<p>会長</p>	<p>はい、ありがとうございます。</p> <p>ここまでについて、今説明ありましたけど、こども計画の策定に向けた課題やニーズ調査、アンケートについて、この機会に何かご意見があれば出していただきたいと思いますと思うのですが、いかがでしょうか。</p>
<p>委員A</p>	<p>では私から。こども・子育てに関するニーズ調査はどうして就学前の子と小学生までなんですか。</p> <p>先程お話がありましたけど、こどもの範囲が広がっている中で、ハイティーンの人たちの施策がすごく大事だと思っています。なぜかという、自</p>

	<p>分たちの進路を考えていく時期なので、長期的に見ると、彼らのニーズって結構大事だと思っているのです。</p> <p>ただ、保護者の人たちが対象なので、思春期になってくるとなかなかわかりにくいかもしれませんが、そのあたりに何か理由とか、何か狙いがおありだったら教えてもらいたいです。</p>
事務局	基本的には、前回第2期プラン策定時と同じで考えております。
委員A	同じでしょ。僕そのときも同じこと言っていると思うのだけど。
事務局	そうでしたか。
委員A	<p>札幌とかほかの自治体もそうなの。</p> <p>だから、いつもハイティーンの人たちについての施策は何も持たないのですかといつも言っています。そうすると大体、学習支援みたいな話になってしまう。多分、不登校や引きこもり対策も、ハイティーンの人たちがいないと出てこないと思うのです。</p> <p>ぜひとも、何か理由がないならば、もう少し大きい年代の人たちの子育てに関するニーズも捉える必要あるのかなと思ったりします。ご検討いただけたらと思います。</p> <p>特にヤングケアラーの認知に関わる場所は、表に出てくるのはハイティーンの子たちになってくると思うので、それもあってヤングケアラーについては高校生のこどもたちの方に質問してくれていますよね。大きい年代になっているのは、そういうことなのかなと思うのですが、保護者の人たちも結構悩みを抱えていると思うのです。まさに期待している部分もある気がするのです。なので、ぜひともご検討をお願いしたいと思っています。</p>
事務局	はい。
委員A	<p>現行のプランは、安心、安全とか分けてやっているじゃないですか。</p> <p>今回も同じような枠組みでやる感じですか。</p>
事務局	それはこれから詰めていこうと考えています。
委員A	<p>そうですか。プランがあつての調査だと思ったので。その辺りをどういう方針で行くのかなと。それはここでは議論しないで、進んでいく感じになるのですか。</p>
事務局	もし何か、今の段階でご意見をいただければ、それも含めてと考えています。
委員A	<p>そうですね。でも次の会議は8月でしょ。今ここでと言われてもちょっと困ってしまうけど、その辺も一任っていう形でいいのかな。</p>
事務局	<p>そうですね。調査の中身につきましては一任いただきたいので、もしその中で拾いきれないものとかがあれば、その先の計画のところ反映できない部分が出てしまう可能性がありますので、結果的にはそういう形になってしまうかと思えます。</p>

委員A	以前はどちらかという、枠組みの話を結構議論して、3分類だったっけ。安全、安心。
事務局	安全・安心・笑顔ですね。
委員A	<p>その3分類も、みんなでブレインストーミングをして、何回かかけてやったように記憶していますが、今回は枠組みなくて調査やります、あとは一任してくださいという形になると、どういう計画のもとで、何を聞くのかというところが、僕らには全然見えない。一任してくださいと言われてもそうかなとしか言いようがない。出てきたものでびっくりしなければいいかなと思ってしまう。</p> <p>これはまちの大事なところだと思っているので、岩見沢市では何を大事にして、どういう子育てをしたいのかがあって、それに対するニーズ調査だと思う。どうですか。</p>
事務局	<p>基本的な考え方は、5年間で変わるというような形ではないと思うのです。つまり、バックキャストイングとして、将来的にこうあるべきだというのを基本的な考え方に、以前皆さんと議論してもらえたと思いますので、その基本的な考え方は変えずに進めたいと考えています。</p> <p>バックキャストイングではなくフォアキャストイングとしてどういうことを具体的にやっていくかというのは別の議論ですけど、基本的な大枠は変えないというのが、あるべき姿なのかなと思っています。</p>
委員A	僕らは変えてほしいと言っているわけではなく、そここのところの確認があつての調査だというふうに思っているのです。でも今回、こども家庭庁ができて、トップダウン的にこども大綱もできたこともあるし、そここのすり合わせもあるじゃないですか。
事務局	上位計画である道の計画、国の計画とのすり合わせは出てきます。
委員A	<p>だけど、それに対して全部そのまんまではなくて、岩見沢市はそれに対してどうするかというところだと思う。</p> <p>例えば、この前のヤングケアラーの部会でも話し合ったのは、ヤングケアラーは家族支援だということをしっかり岩見沢市では考えてみましょうという議論になり、広報していきましようという話があった。その時の広報の在り方に対して、岩見沢市はそうじゃないよね、親のサポートなんだということがわかるようにと。あたかもこどもがかわいそうだという話で広報を打たれてしまうと、僕たちがヤングケアラーの部会で話し合ってきたことが反映されないのではないかという意見があったと思います。ああいうのと同じで、道だけとか国だけの声でやっていると、結局悪く言ってしまうえば金太郎飴になりやすい。</p> <p>いじめについての学校の信用もそうです。僕はいじめの関係もずっとやっていますが、国、道から来て、全部ホームページに金太郎飴みたいに並ぶ。でも、国の指針はそれぞれの場所に、地域に合わせた形で、それぞれ</p>

	<p>の学校独自に作ってくれ、こどもたちも巻き込んでというふうに言うのだけど、そうならない。上から来ちゃうからならないという形になりやすい。</p> <p>だから本当はそれを見た上で、みんなで確認しあって、ある程度テーマができてくるといふふうになってくると、岩見沢市らしいものとか、岩見沢市が大事にしているものが作れるのかなと思っています。以前はそんなストーリーでその3分類ができています。</p> <p>今回、すごく大きな波が、良い波か、乗れる波なのか、飲み込まれる波なのかはわからないけど、こどもとその家族の福祉について、予算も持ってこられるようなものがきている。岩見沢市のどういうところに使えばいいのか、さっきの幼稚園、保育園の問題もそう、何をしていくのかというところを本当によく考えないといけないと思って言わせてもらっています。だから、これで一任でいいですかと言われてたら、この流れだといいですよという話になってしまいそうだけど、ぜひご検討していただいた上で、8月に見せていただくということを確認しておきたくて発言しました。</p> <p>よろしくお願いします。</p>
委員E	<p>こども家庭庁の総合的かつ長期的な少子化に対処するための施策というのは、岩見沢市にとっても一番重要だと思うのです。将来的に、結局は人口が増えていかなければならないのだから。お金のこともあるのでしょうけど、どこかで切り込んでほしいですね。こういうことを大事にしてほしい。</p>
委員F	<p>僕もそう思います。それがやっぱり一番だろうなど。人を増やさないことにはどうしようもない。生まれたこどもと親の施策はやっているけれども、その前の段階で、若者が結婚したい、こどもを産んでも大丈夫な社会にしたい、それが岩見沢市にはあるというのがもし分かれば、岩見沢市の人口も増える。何をやるのがいいのか僕はわからないのですけれども、やっぱりそこが一番だと思う。</p>
委員A	<p>そうだとしたら、この調査をする相手は、岩見沢市の人たちだけでいいのかという話にもなってくる。札幌市とかも通勤圏内ではあるわけだから。どうしたら岩見沢市に来てくれますかということに対するニーズを調査する必要が出てくるかもしれない。</p>
委員F	<p>僕が教員ときは、教育長に教育で人口を増やすと言われたのですよ。これはすごいことだなと思いながら、じゃあ一生懸命それに向けてどうするかというと、学力を上げることだと。僕らの時はそれしかなかったのやってたんですけど、これは本当に難しいなど。</p>
委員A	<p>学力一本で人口が増えるならね。実は複雑だからとても難しいことだと思うのですが、岩見沢市だけ増えれば幸せになるかというのと全然そうじゃない。これから北海道の人口はすごい勢いで大変なことになってくるので、どんどん限界集落ができてくる。札幌市でさえ人口を維持できなくな</p>

	<p>っているわけだから、どういう形で岩見沢市がまちとして生き残っていくのか、どういう位置づけでどういうまちになっていこうとするのか。</p> <p>こどものことはこれに直接リンクするので、これだと今までどおりだけど、本当にそれで大丈夫なのというのが、今までの報告を聞いていて思うところですよ。</p> <p>3年前、5年前に構えていたより事態は結構深刻で、少子化のスピードって僕らが想定していたよりもすごいスピードで転がっていているので、今回の計画は結構試される部分があるのではないかと思いますし、チャンスでもあると思っています。ぜひとも現状維持ではなく、打って出てもらえたらいいなというのが意見です。</p> <p>おそらく、先程の委員E、委員Fがおっしゃっていたのはそういう流れだと思うんです。</p>
委員C	資料の4-2のアンケート調査の一般市民向けのところですけども、上の子育てに関する調査というのは保護者ということですけど、この一般市民というのは、そういう方ではない方というイメージですか。
事務局	そのとおりです。
委員C	左の次期プランに沿ってアンケートをすると。一般市民の対象としては、どの年代の方を想定されているのですか。
事務局	アンケート調査の一般市民の部分については、広報いわみざわに折込みチラシの形で4万世帯に配布して広くご意見を伺うという仕組みで行ってました。その手法を同じ形で取り入れながら、今回はより若い世代の方がより簡単に答えやすくなるようにと、QRコードを読み込んでいただいて、アンケートフォームで広く意見を伺うという機会を作ろうと考えております。
委員C	ということは、そこで年齢を入れたり、いろんな属性を入れて答えていくと。300件と書いてあったので、すごく少ないなど。
事務局	前回の調査結果が300件でしたので300件としておりますが、別の機会に同じような手法で調査を実施したときには900件ほど回答があったというものもあります。ひとまず前回と同じ数字とさせていただきましたが、実際にはもっと増えるかと思えます。
委員C	300件だったら、男女で見たときは150件になるし、年代別に見たら10人、20人のデータで物事を語らないといけなくて、それだとすごく危険だなと思う。一つのカテゴリーで、やはり1,000件は当然いるのだろうなと思っていました。この300件というのが少し気になりました。
事務局	抽出調査ではなく、全戸配付する広報で調査の周知をしまして、QRコードでご回答いただきたいと考えております。
委員A	そうすると、想定回答率90%というのはおかしいよね。ピンポイントでどなたかに回答していただくのかと思いました。

事務局	資料の数字が誤っていました。大変失礼しました。
委員C	<p>配付する対象の年代とか属性を決めて、その方々に90%ぐらい回答してもらおうとかの方が狙いははっきりするかなと思います。あまり広く調査して300件とか400件集まったとしても、使えるデータではないのではないかとこのように思ったところです。</p>
事務局	<p>一般市民向けは全員が回答できる仕組みで行い、もし50%の回答があれば2万件となります。資料に不備があり申し訳ありません。</p> <p>先程、調査の中で就学前児童と小学校児童の保護者だけでなく、ハイティーンの部分も必要ではないかというご意見をいただきました。ハイティーンに対する調査ができるかどうか、検討したいと思っています。例えば、中学生や高校生にお願いするのは場合によってできるかなと思います。他市の事例を見ると、高校生と言っても全学年はなかなか大変みたいで、高校2年生や中学2年生に限ってお願いをしています。そういった事例は承知していますので、その辺も含めて検討したいと思っています。</p> <p>それから計画の中身です。こども計画としてバックキャスティングで10年後にあるべき姿を立てれば、すごく高い視点を目指せると思っています。ただ、中身に入れなければならない、例えば次世代育成支援やこども・子育て支援など、先程お話しした国や道に沿わなければならない部分も出てきます。また、一部の計画は努力義務、任意ですよと言いながら、国からは計画にその事業の記載がないと補助対象にしないというような縛りも相当数ありますので、そこは国と道の計画に合わせる必要があります。</p> <p>その中で、最大限バックキャスティングで考えて、こども計画全体ではより高い位置を目指したご意見をいただきたいと思っています。予算が付く付かないは別として、目指すべき高いところに視点を置いて、そこに少しでも近づけられないかなと。内包される計画にはどちらかというアクションプランに近いものもありますし、国との整合性を取らなければならないものも補助要件としてありますので、これらをうまく組み合わせながら、最終的な目標としては高いところを目指していきたいと考えています。</p> <p>次に、市外の方のアンケートです。いろいろな考え方があると思いますが、移住・定住する世代には総合戦略の中でこども・子育て関連について聞き取った内容もあります。新たに調査を行うのではなく、総合戦略のデータを利用してまいりたいと思っています。既存のデータはほかにも行っているものがありますので、そういったデータも含めて利活用したいと考えています。</p> <p>アンケートは、今日いろいろとお聞きした中で全てを一任というのはなかなか厳しいと思いますので、素案を作成し、皆様に一度お送りしたいと思っています。その中で事前にご意見等をいただいたうえで調査を実施し、次</p>

	回の会議を行う形に変更したいと考えております。
委員A	アンケートよりも、第3期のこども・子育てプランの話をするべきだと思います。そのプランのビジョン、先程高いところを目指すとおっしゃったものがどういうものなのか、それについて委員が何らかのコメントができるような形にした方がいいのではないですか。それがあってのアンケートだと思います。
事務局	はい。
委員A	いかがでしょうか皆さん。何期か委員をされている方はホワイトボードで一緒にいろいろと書き出しながら議論をしたと思うのですが。 お忙しくなるのも分かっているのですけれども、岩見沢市のこどもたちと子育てについて、私たちも頑張りたいと思いますので、ぜひともご協力をお願いします。
委員G	すみませんが、2点ほど教えてください。 資料4-2でニーズ調査、2つの調査をやるというお話だったのですが、資料4-1ではニーズ調査の中に虐待アンケートというのも入っていたので、これがどういったものかを教えていただきたいです。また、資料4-2で貧困対策推進の方の実態調査というのがあると思うのですけれども、これは資料4-1のスケジュールではどこに入ってくるのかがわからなかったもので、こちらも教えていただければと思います。
事務局	まず、虐待アンケートですけれども、こちらは資料4-2にあります事業所向けのアンケート調査を指しております。生活実態調査につきましては、直接児童・生徒の皆さんに行っていただく調査になります。実施時期につきましては学校の協力も必要なものですので、調整して決まり次第、皆様にお伝えできればと考えております。
委員G	わかりました。ありがとうございます もう1点、本来であれば一つ前の第2期の方でお話できればと思ったのですが、事業評価が唯一Dだったものが虐待の防止に関するものでした。事業内容が関係機関での虐待防止に向けての懇話会ということで、児童相談所でも出前研修なども行っていますので、もし必要であればお声がけいただければと思います。
会長	生活実態調査については、10月の第1回ヤングケアラーの専門部会でその調査結果が共有されるという理解で良いのかな。スケジュールの10月にニーズ結果情報共有ということになっているから、その前に実態調査を行うと。委員Gも同席されると思いますので、ぜひいろいろとコメントをいただきたいと思います。 また、今後事務局から各委員にいろいろと届くものなどもあるかと思えますのでご対応いただければと思います。 次に進みたいと思います。議事3の幼稚園の認定こども園移行について、

	事務局からお願いします。
事務局	<p>よいこのくに幼稚園の認定こども園移行についてご説明いたします。</p> <p>資料5の①から④をお手元にご用意しております。</p> <p>よいこのくに幼稚園の認定こども園の移行につきましては、令和4年度第2回子ども・子育て会議におきまして、令和6年4月1日からの移行ということで、一応ご承認をいただいたところですが、令和5年度の北海道に申請をするというタイミングの前に職員の退職等により職員配置基準を満たさなくなることが判明し、申請を断念したという経緯があります。</p> <p>この度、改めまして今後の児童数の推移見込みなどを踏まえ、定員全体で90人、うち2号認定児童を30人という形で変更し、令和7年4月1日から移行をしたいということで協議がありました。</p> <p>なお、令和7年度以降のニーズ把握はこれからの作業となるため、移行年度である令和7年度の需要量が把握できておりません。そのため、今回は令和6年度の実績等をもとに是非の判断を行ったものとなります。</p> <p>それでは、資料5①をご覧ください。こちらはよいこのくに幼稚園についての概要及び認定こども園移行にあたっての定員について記載しております。</p> <p>続きまして、資料5②をご覧ください。こちらは市全体の定員を整理した資料です。赤く表示されているところが前年から変更となった部分です。まず、令和5年度に天使幼稚園、令和6年度に聖十字幼稚園が認定こども園に移行しております。また、令和6年度にはよいこのくに幼稚園が定員を105人から90人に下げしております。そのほか、直接関係のない部分ではありますが、へき地保育所である美流渡保育所が廃所となったことにより、令和6年度以降の数字を非計上としております。</p> <p>なお、表の下の囲みに年度ごとにどのような変更があったのかを記載しておりますので、ご確認ください。</p> <p>それでは本題に入ります。資料5③をご覧ください。</p> <p>今回の認定こども園移行の希望があったことに対して、是非をどのように判断したのかを整理した資料となります。</p> <p>まず第1に、認定こども園に移行することによってどのような効果もたらされるかという点について検討いたしました。</p> <p>近年、保育サービスの需要が増加傾向にあることはご承知おきいただいていると思いますが、幼稚園における教育を受けつつ、かつ、仕事をするなどによって保育サービスも利用したい、といったニーズも依然としてある状況です。このようなニーズに対し、従前では新2号認定による無償化などによって対応してきたところですが、認定こども園となって2号認定の児童の受け入れができるようになると、夏季休暇などの長期休暇期間中であっても安心して通園を続けることができたり、長時間にわたっ</p>

てこどもを預けなければならないという場合であっても費用負担が生じづらいなど、移行によって保護者の利便性をさらに高めることが期待できると考えております。新2号認定を受ける児童数は令和3年度は301人、令和4年度277人おります。令和5年度は230人ですが、これは天使幼稚園が認定こども園になって30人が2号認定に変更となったことによる減少が含まれますので、比較のためにこれを合計すると260人となります。

第2に、岩見沢市において2号認定児童の入所定員を拡充する必要があるかについて検討いたしました。今年度当初の入所児童数のうち、へき地保育所に入所する児童を除いた2号認定児童は681人です。この数字は、令和6年度の2号認定の定員の合計、資料5②の中央付近に記載されている数字ですけれども、この663人を上回っております。実際には認可保育所等において、保護者の希望に応じて基準の範囲内で定員を上回る児童を受け入れておりますので、待機児童が生じるといったことはなく、入所可能な児童数としては充足しているのですが、定員の合計で見ますと不足を生じているということになります。また、先行して幼稚園から認定こども園へ移行した天使幼稚園と聖十字幼稚園の2園につきまして、2号認定の入所児童数が定員一杯に達してございまして、よいこのくに幼稚園の移行による2号認定児等の入所枠の拡充は、第1としてご説明しましたニーズの充足に資するものと考えております。

第3に、この移行によりまして、他の認可保育所等の入所児童、経営状況に対して影響がどのように及ぶかについて検討いたしました。今回の移行におきましては、先行して認定こども園へ移行した2園と同様、既に在園して新2号認定を受けている児童を2号認定に変更するのみであることから、移行年度において他の認可保育所等の入所児童に影響はありません。また、それ以降の年度におきましても、市では幼稚園型認定こども園の2号認定児童の入所数について定員を上限としており、これを超えることができませんので、影響は限定的であると考えております。

以上によりまして、認定こども園への移行の希望を受け入れるべきと判断いたします。

最後に資料5④をご覧ください。認定こども園への移行にあたって、北海道の定める基準を充足しているかの確認を行った結果です。1日の開所時間及び年間の開所日数、子育て支援事業の実施の有無、園舎・保育室等の面積要件、屋外遊戯室の面積要件、給食提供体制のいずれにつきましても基準を充足しております。ただ1点、職員配置状況につきましては、現状1人の常勤職員が不足している状況です。当然ながら移行するためにはこの状況を改善する必要があるとあり、常勤職員1名の確保が必要となるところですが、現在園が行っている職員確保のための方策が、資料下部に記載の2点となっております。まず、現在非常勤である職員1名を常勤とするこ

	<p>とによって、この職員を主幹教諭代替職員に充てる方法をとろうとしております。現状、主幹教諭代替職員は2名が必要で、うち1名は常勤である必要がありますが、この部分が充足できておりませんので、この方法をとることができれば職員配置の基準を充足することができます。ただ、現時点では当該職員からの了承は得られておりません。了承を得られない場合には、新たに常勤職員1名を採用する必要がありますので、並行してハローワークを通じて募集を行っておりまして、先日ハローワークから紹介を得られ、紹介された方が先日施設見学に訪れたそうですけれども、今後面接等を行って採用の運びとなれば、今年度中には採用するという話を伺っております。</p> <p>以上のように園として人員確保の努力は続けておりますが、現時点で基準を充足していないということもまた事実です。事務局といたしましては、認定こども園移行の希望は汲みたいと考えておりますけれども、移行時点で人員配置が充足されることを担保するために、11月の北海道への申請までに職員配置が充足されることとの条件を付した上で承認をいただく形が望ましいのではと考えておりますので、この点についてご協議いただきたいと思っております。</p> <p>よいこのくに幼稚園の認定こども園移行に係る協議の説明は以上でございます。</p>
会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>条件付きでということですね。なかなか人員確保というのは大変かと思っておりますけれども。よろしいですね。</p> <p>それではご意見がなければ、以上で予定されている事項は全て終了となります。皆さんから情報共有する事項は何かありますか。</p> <p>なければ本日の議事は以上で終わりたいと思っております。議事を事務局にお返ししたいと思います。ご協力ありがとうございます。</p>
事務局	4 その他 第2回会議の調整
事務局	5 閉会 (20:00)